

「10よりおおきいかず」 ～親子会の準備をしよう！～

本単元で育成する資質・能力

思考力・判断力・表現力，主体性

日時 平成30年7月13日（金）
学年 第1学年 男子7名，女子9名，計16名

1 単元について

(1) 単元観

本単元と学習指導要領との関連は次のようになっている。

A 数と計算

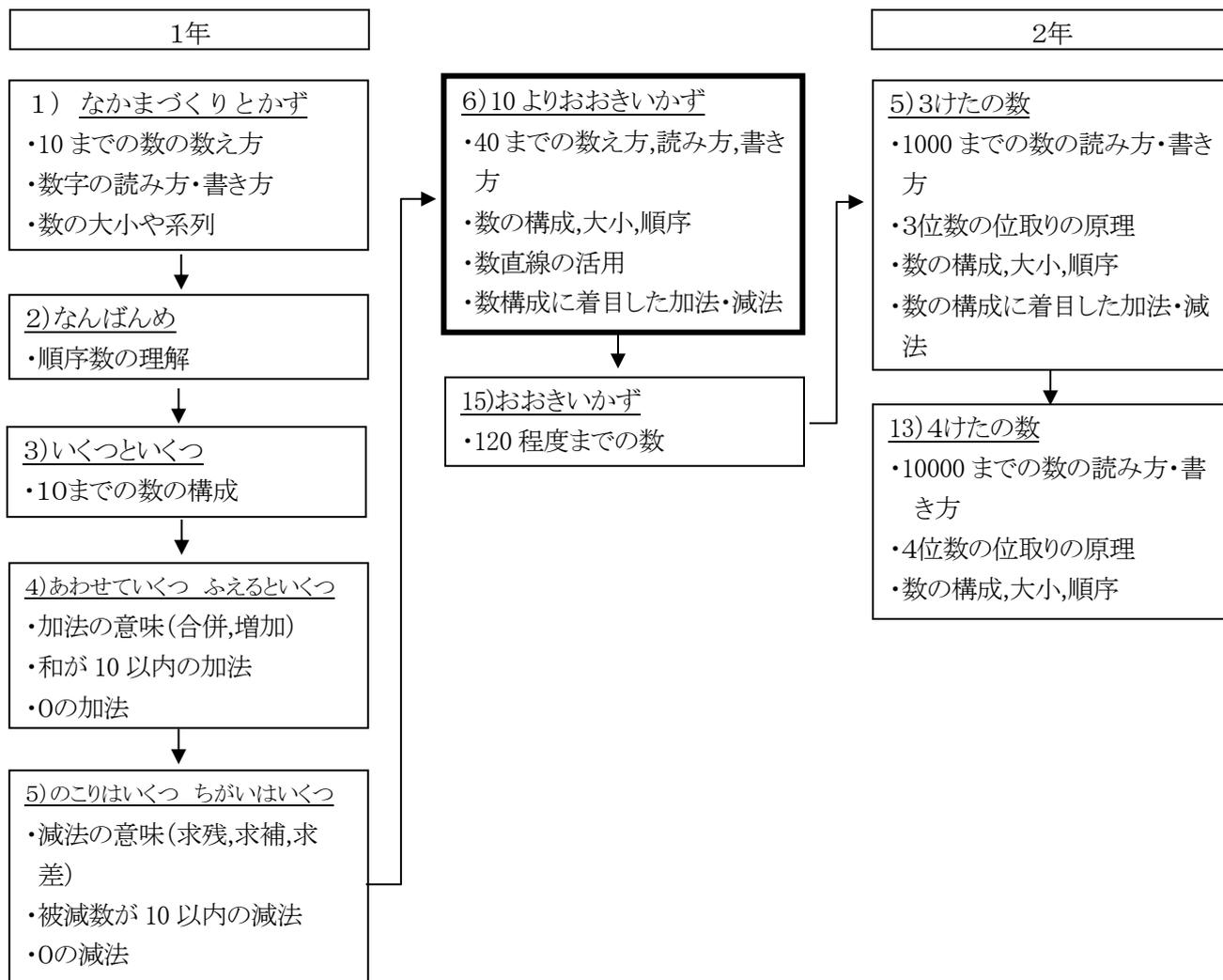
- (1) ものの個数を数えることなどの活動を通して、数の意味について理解し、数を用いることができるようにする。
 - ア ものとものを対応させることによって、ものの個数を比べること。
 - イ 個数や順番を正しく数えたり表したりすること。
 - ウ 数の大小や順序を考えることによって、数の系列を作ったり、数直線の上に表したりすること。
 - エ 一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。
 - オ 2位数の表し方について理解すること。
 - キ 数を、十を単位としてみること。
- (2) 加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。
 - ウ 簡単な場合について、2位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えること。

児童は、これまでに、具体物を数える活動を通して、10までの数について、個数の数え方、数字の読み方や書き方、数の構成などを学習した。また、加法・減法については、1位数同士の加法・減法の意味や計算の仕方について学習している。

本単元では、数の範囲を10から40まで拡張し、個数の数え方、数字の読み方や書き方、数の構成について学習する。既習の10までの数の指導に準じて、数える活動を行い、10を超えた数についても数の性質はこれまでと同じことを理解させることがねらいである。また、本単元では、10より大きい数を、「10のまとまりがいくつと端数がいくつ」と捉えることを通して、十進位取り記数法の素地を養うことができる。そして、数直線の上に数を表せることを学習することを通して、数直線を用いて数の大小、順序及び数の大きさを捉えさせ、数概念の理解を深めることができる単元である。さらに、20までの数の構成の理解に基づき、既習の加減計算を活用して、 $10+1$ 位数及びその逆の減法計算($10+3$, $13-3$ など)を学習する。これは、「10といくつ」という20までの数の構成を式に表現することによって、数概念の理解を深めることをねらいとしている。

以上のように、本単元では、具体物から半具体物、そして抽象的な数や数直線、式へと、段階的に数概念の理解を深めることができるとともに、多様な表現方法を関連付けながら理解を深めることを通して、児童の思考力・判断力・表現力を育成することができると考え、本単元を設定した。

【本単元の学習の関連と発展】



(2) 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本校として、以下の資質・能力の育成に重点を置いている。

【ス キ ル】	①課題発見・解決力	②思考力・判断力・表現力
【意 欲 ・ 態 度】	③コラボレーション能力	④主体性
【価 値 観 ・ 倫 理 観】	⑤人としての多いやり	⑥自らへの自信

この中から、本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわりについて、次の2点に重点を置くものとする。

【ス キ ル】

②思考力・判断力・表現力

自分の考えたことを具体物やブロック等の半具体物、式や数直線など抽象的なものや言葉等を使って数学的に表現する活動や、多様な表現方法を関連付けながら数概念への理解を深める活動を通して、思考力・判断力・表現力を育成する。

【意 欲 ・ 態 度】

④主体性

学習課題を日常生活に生かすことのできる内容にすることにより、「解きたい」「考えた方法を伝えたい」と思わせ、自ら学ぼうとする主体性を育成する。

(3) 児童観 (調査結果から見る課題)

児童の既習内容の定着状況をみる事前テストの結果は次のとおりである。(6月中旬実施)

ちからだめし・10までのかず

① えび ぶろっくと すうじを せんで むすびましょう。***

② 7

③ 10

④ 8

⑤ すうじの かずだけ ○に いろを ぬりましょう。***

⑥ 6

⑦ 10

⑧ 9

⑨ □に あてはまる かずを かきましょう。***

⑩ 5 □ 7 8 □ □

⑪ 0 □ □ 3 4 □

⑫ おおきい ほうの かずに ○を つけましょう。***

⑬ 8 10

⑭ 7 5

⑮ 9 8

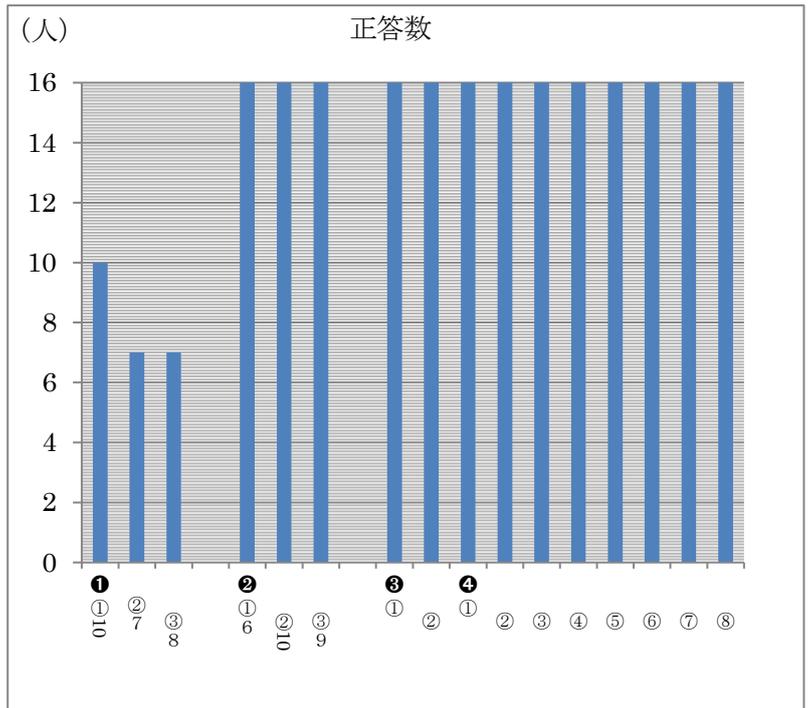
⑯ 4 6

⑰ 7 6

⑱ 4 8

⑲ 9 7

⑳ 10 9



「10までの数」に関するレディネステストは、大問①～④で構成される。①は、具体物と半具体物、数字を互いに対応させ、線で結ぶ問題である。間違えた児童に、個別で再度具体物の数を数えるよう声を掛けると、間違いに気付き、正しく数えることができた。5より大きくなったり、具体物が密集したりした状態だと、正しく数えることが難しいようだった。②は、数字の数だけ○を塗る問題である。全員が正しく数字の数だけ○を塗ることができた。③は、10までの数系列への理解を確かめる問題である。10までの数系列は、全員が理解している。④は、数字の大小を比べる問題である。全員が数の大小を理解し、比較することができた。

ちからだめし・10までのたしざん

① けいさんを しましょう。***

② $3 + 6 =$

③ $2 + 8 =$

④ $5 + 1 =$

⑤ $6 + 2 =$

⑥ $2 + 2 =$

⑦ $6 + 3 =$

⑧ $4 + 2 =$

⑨ $7 + 1 =$

⑩ $1 + 9 =$

⑪ $2 + 6 =$

⑫ $7 + 3 =$

⑬ $1 + 4 =$

⑭ $4 + 3 =$

⑮ $1 + 1 =$

⑯ $6 + 4 =$

⑰ $5 + 2 =$

⑱ $2 + 4 =$

⑲ $5 + 4 =$

⑳ $1 + 7 =$

㉑ $3 + 7 =$

㉒ $4 + 4 =$

㉓ $1 + 5 =$

㉔ $3 + 5 =$

㉕ $1 + 6 =$

㉖ $1 + 2 =$

㉗ $7 + 2 =$

㉘ $9 + 1 =$

㉙ $4 + 6 =$

① $5 + 3 =$

② $3 + 4 =$

③ $8 + 2 =$

④ $2 + 3 =$

⑤ $4 + 5 =$

⑥ $6 + 1 =$

⑦ $5 + 5 =$

⑧ $1 + 3 =$

⑨ $2 + 7 =$

⑩ $1 + 8 =$

⑪ $3 + 2 =$

⑫ $2 + 5 =$

⑬ $8 + 1 =$

⑭ あかいりんごが 6こ、さいろいりんごが 2こ あります。りんごは あわせて なんこ ありますか。 (1)

しき

⑮ こたえ _____

⑯ あだがおの はなが さきました。あかい はなが 4こ、しろい はなが 5こ さきました。あわせて なんこ さきましたか。 (1)

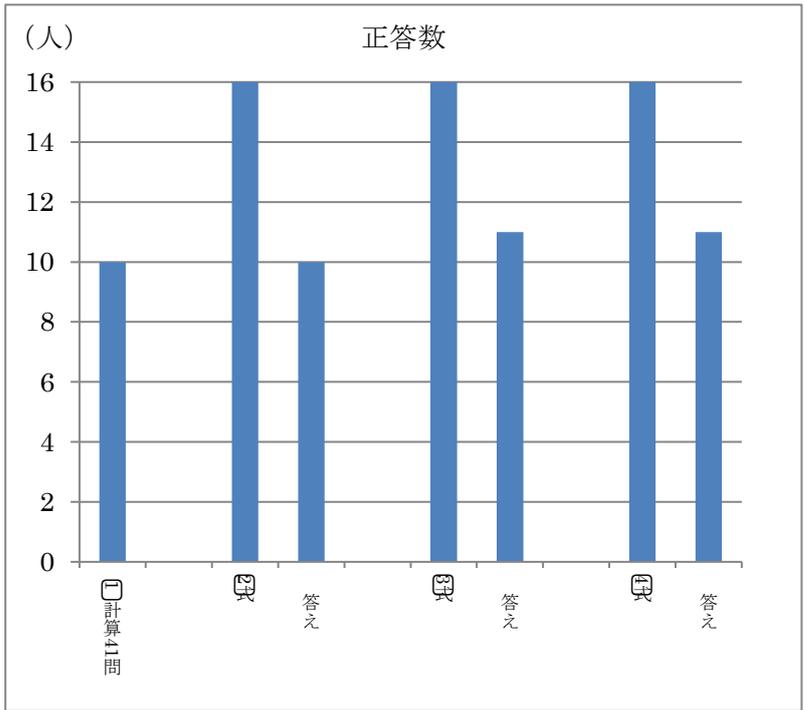
しき

⑰ こたえ _____

⑲ 左側へ来たおに 3にん、のっぺいいます。つぎの かいて 7にん のっぺきました。ぜんぶで なんにん になりましたか。 (1)

しき

こたえ _____



また、「10までのたし算」に関するレディネステストは、大問①～④で構成される。①は、たし算の計算問題である。たし算は、半数以上が指やブロックを使いながら計算している。グラフの正答数は完答の児童数であり、学級の平均正答率は約93%だった。多くの児童は、ブロックや指を使うことで正しく計算できている。②～④は、10までのたし算の文章題である。全員が自分の力で立式することができた。一方で、単位を付け忘れたり、書き間違えたりする児童が多かった。(16人中5人)

以上のことから、既習事項については、全員が概ね理解できているが、数え間違いや計算間違いなどに気を付けながら数えたり計算したりする練習が必要であることが分かった。「正しく数える力」は、本単元でも必要となるため、印をつける等工夫しながら正しく数える練習を重ねる必要がある。また、たし算の計算においても、計算カード等を活用しながら繰り返し練習することで定着を図る必要がある。

【支援を要する児童の実態】

<児童A>

「10までのたし算」では、ブロックを使うため、計算に時間がかかったり、ブロックを用意する数を間違えたりすることがある。②～④のたし算の文章題では、どの問題も自分の力で立式することができたが、答えを「8ち」や「10 うにん」と書くなど、答えの書き方が理解できていなかった。既習内容については概ね理解できているものの、答えなどを正しく表記することに課題がある。

<児童B>

「10までのたし算」に関するレディネステストでは、④の計算を「 $3 + 7 = 8$ 」と答えていた。指を使うため、計算に時間がかかったり、指を数え間違えたりすることがある。また、ブロック操作において、「ブロックを8こ用意しましょう」と指示された時、10こ用意するなど、正しい数だけ用意することができない時がある。既習内容については概ね理解しているが、ブロックや指の数を正しく数えることができないことから、たし算の計算を間違えやすい。

<児童C>

「10までの数」に関するレディネステストは、大問①の数と数字の対応について、3問中2問の誤答であった。1対1対応が十分に理解できていないことがわかった。また、「10までのたし算」に関するレディネステストでは、①の計算の正答率は、20問中6問のみであり、たし算の計算に課題があった。文章題では、立式することはできたが、答え方の書き方においては数詞が書かれておらず、ものをどのように数えるのかを習得していないことがわかった。また、ブロック操作において、指示されたブロックを用意する時、1つずつ数えながら用意している。「3こ」といった場合にも、1つずつ数えながらとっていることから、反具体物の数をまとまりでとらえることが難しい。以上のことから、たし算の既習の定着と、物の数え方に課題がある。

<児童D>

「10までの数」に関するレディネステストは、大問①では、3問中2問の誤答だった。絵とブロックを線で結ぶ問題であるが、絵の数を集中して数えることが不十分であったと考える。また、「10までのたし算」に関するレディネステストの文章題では、立式することができたが、答え方の書き方において数詞が書かれておらず、ものをどのように数えるのかを習得していないことがわかった。以上のことから、1対1対応が十分に理解できていないことと、物の数え方に課題がある。

(4) 指導観(指導改善のポイント)

本単元に入る前に、事前テストで間違えやすい問題であった、10までの数の具体物・半具体物の個数を正しく数える練習に取り組む。フラッシュカードを活用したり、プリント問題を活用したりすることにより、工夫しながら正しく数えることができるよう指導する。「数えひき」から「まとめひき」に段階的に移行できるよう、10までの数のブロックの絵をフラッシュカードにしたものを活用し、速く正確に数を捉えることができるようにする。また、計算カード等を活用しながら、既習の加法・減法の計算が速く正確にできるよう繰り返し練習し、定着を図っておく。

本単元の指導にあたっては、形式的な数字の読み書きや計算練習に陥らないよう留意し、具体物の数を数えたり、半具体物を用いて数を表現したりする活動を通して、数の構成を体験的にとらえることができるようにする。また、10より大きい数を「10といくつ」や「何十と端数がいくつ」ととらえ、数を数えたり、数の構成を考えたりする学習を通して、十進位取り記数法の素地を作ることができるようにする。

単元の導入では、児童に数を速く正しく数える必然性をもたせるために、「親子会に向けて、学級委員のお母さん達からお願いが届いています。親子会での準備が忙しくて困っています。手伝ってもらうため、10より大きい数でも、速く正しく数えることができる数名人になってください。」という問題を提示し、児童に「10より大きい数でも速く正しく求めることができるようになりたい。」という意欲をもたせたい。

そして、次に、どうすれば速く正確に数を数えることができるか考えさせる。数が大きくなるにつれ、10までの数のように、簡単な印だけでは、数え間違えてしまうことが考えられる。そこで、数えたものに印を付けるだけでなく、「10のまとめり」を作ることで、「正しい数が一目で分かる」というまとめりを作る良さに気付かせたい。

そして、具体物や半具体物(ブロック等)の操作による表現活動を通して、数の意味や構成について段階を追って理解を深めることができるようにしたい。さらに、数直線を用いて、数の大小や順序数及び数の大きさをとらえさせることにより、数概念を深めたり、「10といくつ」の見方に基づく加減法を取り上げることで、数の構成への理解を確実なものにできるようにしたりしたい。

本時では、親子会という「日常生活に関する問題」を提示することで、児童に主体性をもたせたい。また、「親子会で作るフルーツサンド」は実際に操作することが難しいことから、半具体物を使った思考・表現活動への必然性を感じさせたい。話し合いの場面では、「 $15-3$ 」の「3」をどこから引くと分かりやすいのかを話し合わせることで、「10と端数がいくつ」の考え方を活用し、「端数がいくつ」から引くと簡単に計算できることを実感させたい。児童が自分の考えを説明する際には、実際にブロックを操作しながら、説明できるように支援していきたい。その際、自分で上手に言えないときには「つないでください。」と友達に助けを求めたり、分かりやすい説明を繰り返し真似させたりすることを通して、聞く人を意識した分かりやすい説明をする力を付けていきたい。さらに、聞く側には、自分の考えとの共通点や相違点、疑問点を考えながら聞かせることで、思考を深めさせるとともに、友達の意見を大切にしながら学び合おうとする態度を育てたい。

【個への支援】

<児童A>

- 視覚化 … 自力解決の際、手立てとなるワークシートをもとにブロック操作を行う。答えの書き方が間違っている場合は、正しい書き方を赤で書いてやり、なぞらせる。
- パターン化 … 計算の仕方の唱え方（「10のまとまりはそのまま」「ばらから〇個引いて」）を伝えて覚えやすくする。物の数え方については、生活場面や他教科など様々な場面で経験をしていく中で習得させていく。
- 作業化 … ブロック操作の時、引く数をばらから引けるように、10のまとまりを意識できる声かけをする。「ばらに注目してみよう。」

<児童B>

- 視覚化 … 自力解決の際、手立てとなるワークシートをもとにブロック操作を行う。
- パターン化 … 計算の仕方の唱え方「10のまとまりはそのまま」「ばらから〇個引いて」を伝えて覚えやすくする。たし算の計算に課題があるため、計算カードで毎日繰り返し計算練習に取り組みさせることで、既習内容の定着を図る。
- 作業化 … ブロック操作の時、引く数をばらから引けるように、10のまとまりを固定した状態で操作のワークシートに出すように声かけをする。「ばらの方を引いてごらん。」

<児童C>

- 視覚化 … 自力解決の際、10のまとまり・ばらがはっきり区別できるシートを準備しておき、ブロックの「10のまとまり」と「ばら」を意識させるようにする。答え方が書けていないときは、支援者が赤で正しく書いてやり、なぞらせる。一つ一つの答え方について、説明をしながら書き方について慣れさせていく。
- パターン化 … 計算の仕方の唱え方を伝え（「10のまとまりはそのまま」「ばらから〇個引いて」）覚えやすくする。物の数え方については、生活場面や他教科など様々な場面で経験をしていく中で習得させていく。たし算を計算するのに課題があるため、計算カードで毎日繰り返し計算練習に取り組みさせることで、既習内容の定着を図る。
- 作業化 … ブロックの作業の際、「ばら」のブロックに注目しやすいように、10のまとまりを固定した状態で机に出させる。操作の様子を見て、「ばらの方を引いてごらん。」と言い、ばらを操作させる。

<児童D>

- 視覚化 … 自力解決の際、10のまとまり・ばらがはっきり区別できるシートを準備しておき、ブロックの「10のまとまり」と「ばら」を意識させるようにする。立式ができていないときは、支援者が鉛筆書きをしてやり、なぞらせる。繰り返しおこなっていくことで書き方について慣れさせていく。
- パターン化 … 計算の仕方の唱え方を伝え（「10のまとまりはそのまま」「ばらから〇個引いて」）覚えやすくする。物の数え方については、生活場面や他教科など様々な場面で経験をしていく中で習得させていく。たし算の計算力に課題があるため、計算カードで毎日繰り返し計算練習に取り組みさせることで、既習内容の定着を図る。
- 作業化 … ブロックの作業の際、「ばら」のブロックに注目しやすいように、10のまとまりを固定した状態で机に出させる。操作の様子を見て、ばらに注目していない場合は、「ばらの方を引いてごらん。」と言い、ばらを操作させる。

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

○10 をひとまとまりにして数えることよさに気づき、ものの個数を数えようとする。

○40 までの数の構成を基に、数え方や計算の仕方などに活用しようとする。

(算数への関心・意欲・態度)

○40 までの数を「何十と端数がいくつ」とみて、数え方や読み方、書き方などを考え、表現することができる。

○数の構成や既習の計算を活用して、20 までの数の繰り上りや繰り下がりのない加減計算の仕方を考え、表現することができる。

(数学的な考え方)

○40 までの数について数えることができ、数を読んだり書いたりすることができる。

○20 までの数の繰り上がりや繰り下がりのない加減計算ができる。

(数量や図形についての技能)

○40 までの数について、数の読み方や書き方、数の構成や大小などを理解する。

○20 までの数の構成を、加法や減法の式に表せることを理解する。

(数量や図形についての知識・理解)

(2) 単元の評価規準

ア 算数への関心・意欲・態度	イ 数学的な考え方	ウ 数量や図形についての技能	エ 数量や図形についての知識・理解
① 10 をひとまとまりにして数えることよさに気づき、ものの個数を数えようとしている。 ② 40 までの数の構成「何十と端数がいくつ」を基に、数え方や計算の仕方などに活用しようとしている。	① 40 までの数を「何十と端数がいくつ」とみて、数え方や読み方、書き方などを考え、表現している。 ② 数の構成や既習の計算を活用して、20 までの数の繰り上がりや繰り下がりのない加減計算の仕方を考え、表現している。	① 40 までの数について数えることができ、数を読んだり書いたりしている。 ② 20 までの数の繰り上がりや繰り下がりのない加減計算をしている。 ③ 学習内容を適用して、問題を解決している。	① 40 までの数について、数の読み方や書き方、数の構成や大小などを理解している。 ② 20 までの数の構成を、加法や減法の式に表せることを理解している。 ③ 基本的な学習内容を身に付けている。

3 指導と評価の計画

(全 13 時間)

次	学習内容(時数)	評価						児童の反応	
		関	考	技	知	評価規準	評価方法		資質・能力の評価 (評価方法)
一	課題の設定 ○「親子会」に向けた問題を知る。 ○「親子会」に向け、10 より大きい数を速く正確に数える「数名人」を目指そうという課題を設定し、本単元の学習への意欲と見通しをもつ。(1)	○				ア①既習の 10 までの数を振り返り、10 より大きい数のものの個数も数えようとしている。	行動観察	【意欲・態度】 ④主体性 (行動観察)	 親子会に向けて、10 より大きい数も速く正確に数えることができる「数名人」になりたいな。どうやったらなれるかな。
二	情報の収集 ○20 までの数の数え方や唱え方を理解する。(1)	○				ア①10 をひとまとまりにして数えることよさに気づき、ものの個数を数えようとしている。	行動観察 ノート		 10 より大きい数のものを速く正しく数えるにはどうしたらいいかな。  「10 とばらがいくつ」で数えると分かりやすいね。
	情報の収集 ○20 までの数の読み方や書き方を理解する。(1)		○			イ①20 までの数を「10 といくつ」とみて、数え方や読み方、書き方などを考え、表現している。 ○ エ①20 までの数について、数の読み方や書き方、数の構成や大小などを理解している。	行動観察 プリント 行動観察 プリント		 20 までの数はどうやって読んだり書いたりしたらいいのかな。  「10 とばらがいくつ」で考えると、20 までの数が正しく書けそうだな。

<p>情報の収集</p> <p>○20 までの数の数え方の理解を深める。(1)</p>		○		<p>ウ①20 までの数について、「10のまとまり」を用いて正しく数えたり、数を読んだり書いたりしている。</p>	<p>行動観察 プリント</p>	<p>【意欲・態度】 ④主体性 (行動観察)</p>	<p> 親子会に向けて必要なものを準備しよう！</p> <p> 「10のまとまり」を作ると速く正しく数えることができるな。2とびと5とびを使うともっと速くできるな。</p>
<p>情報の収集</p> <p>○20 までの数の構成を理解する。(1)</p>		○		<p>ウ①20 までの数を正しく数え、「10といくつ」という言い方にそって分解することができる。</p>	<p>行動観察 プリント</p>		<p> 隠れているものや足りないものの数はどうやって求めたらいいのかな。</p> <p> 「10 とばらがいくつ」の考えを使うと、すぐ分かるね。</p>
<p>情報の収集</p> <p>○数直線を知り、数が表せることや、20 までの数の大小や系列を理解する。(2)</p>		○		<p>エ①20 までの数直線の特徴や性質(0が基点,等間隔の目盛り,左から右に順に1ずつ数が大きくなるなど),20までの数の大小や系列を理解している。</p>	<p>行動観察 プリント</p>		<p> 「数の線」って何かな。</p> <p> 「数の線」を使うと、数の大小や順番が分かりやすいね。</p>
<p>情報の収集</p> <p>○40 までの数の数え方、読み方、書き方を理解する。(2)</p>	○		○	<p>イ①40 までの数を「何十と端数がいくつ」とみて、数え方や読み方、書き方などを考え、表現している。</p> <p>エ①40 までの数について、数の読み方や書き方、数の構成や大小などを理解している。</p>	<p>行動観察 プリント</p> <p>行動観察 プリント</p>	<p>【スキル】 ②思考力・判断力・表現力 (行動観察・プリント)</p>	<p> 20 より大きい数も「10のまとまり」を使うと速く正しく数えることができるかな。</p> <p> 20 より大きい数も「何十とばらがいくつ」で数えると簡単。</p>

	<p>整理・分析</p> <p>○20までの数の構成を和や差でとらえ、10と1位数の加法とその逆の減法をすることができる。(1)</p>	○		<p>ア②40までの数の構成「何十と端数がいくつ」を基に、数え方や計算の仕方などに活用しようとしている。</p> <p>○ エ②20までの数の構成を、加法や減法の式に表せることを理解している。</p>	<p>行動観察 ノート</p>		<p> 「10といくつ」を式にするとどうなるのかな。</p> <p> 「10といくつ」で考えると、簡単に計算できるんだね。</p>
	<p>情報の収集 整理・分析</p> <p>○20までの数値の構成を和や差でとらえ、$12+3$、$15-3$などの立式と計算ができる。(1) 【本時】</p>	○		<p>イ②数の構成や既習の計算を活用して、20までの数の繰り上りや繰り下がりのない加減計算の仕方を考え、表現している。</p>	<p>行動観察 ノート</p>	<p>【スキル】 ②思考力・判断力・表現力 (行動観察・プリント)</p>	<p> 今日も「10といくつ」は使えるのかな。</p> <p> 「10といくつ」で考えて、「ばら」同士を足したり引いたりすると簡単だね。</p>
三	<p>まとめ・創造・表現 振り返り</p> <p>○学習内容を適用して、問題を解決する。(2)</p>	○		<p>ウ③学習内容を適用して、問題を解決することができる。</p> <p>○ エ③基本的な学習内容を身に付けている。</p>	<p>プリント プリント</p>		<p> 図やブロック、数直線、式を使って考えてみよう。</p> <p> どの方法でも正しい答えがわかるね。これで僕たちは「数名人」だ!</p>

4 本時の学習

(1) 本時の目標

数の構成や既習の計算を活用して、20 までの数の繰り下がりのない減法計算の仕方を考え、表現することができる。(数学的な考え方)

(2) 準備物

問題文(教室掲示用), ブロック(教師用, 児童用), 10のまとまり・ばらの部屋の紙(教師用・児童用)
テレビ, 実物投影機

(3) 本時の学習展開

- ねらいーまとめ ○理解を助けたり, 関わりを深めたりするための支援
- 吹き出しは, 前回の授業研究で出た課題克服のための手立て

学習活動と求める児童の反応	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
1 本時の課題を設定し, 解決への見通しをもつ。			
<p>○本単元における既習事項を確認する。</p> <p>○問題を知る。</p> <div data-bbox="188 1216 585 1364" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>フルーツサンドを15こつくりました。3こたべました。 のこりは なんこになりますか。</p> </div> <p>○本時のめあてを確認する。</p> <div data-bbox="188 1939 585 2058" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>●ぶろっくをつかって, けいさんのしかたをかながえよう。</p> </div>	<p>○本単元では, 親子会に向け, 「数名人」を目指していたことを振り返り, 意欲を喚起するとともに, 10より大きな数を速く正しく数えるポイント「10といくつ」を思い出させる。</p> <p>○問題場面のイメージをもちやすくするため, 場面絵, 問題文の順に提示する。また, 場面絵が入ったワークシートをノートに貼っておく。</p> <p>○わかる数字と聞かれていることを確認することにより, 問題場面を整理する。</p> <p>○場面絵や「たべました」・「のこりは」といった言葉から, ひき算であることを理解させ, 立式させる。</p> <p>○既習の 10 までのひき算を想起させ, 引かれる数が 10 より大きいという既習との違いに気付かせる。</p> <p>○方法の見通しとして, 「ブロックを使う」という条件を提示する。</p>		<div data-bbox="1002 1554 1442 1865" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content;"> <p>②見通しをもたせる</p> <p>○思考方法や「10 といくつ」という考え方を想起させ, 「なにが分からない」「どの方法で」「どう考えればよいのか」という見通しをもたせる。</p> </div>

2 課題を解決する。

○数名人のポイントを想起し、どのようにブロックを動かせば「速く正確に」求められるかを考えるという解決への見通しをもつ。

- ・「10 といくつ」にすれば「速く正確に」答えが分かったね。
- ・どう引けば「速く正確に」答えが分かるな。

○自力解決する。

- ・15－3を求めるためのブロックの動かし方を考える。

①ばらの5から3をひく。

②10のまとまりから3をひく。

③10のまとまりとばらのそれぞれから、3をひく。

○本時では、答えを出すために、どのように動かすと、「速く正確に」答えが求められるのか考えるということを確認し、考えることを明確にする。

○全員が「15」を「10のまとまり」とばらが「5」で用意したことを確認し、自力解決を始める。

○机上でブロックを動かしながら、どのようにブロックを動かすと、「速く正確に」求められるのかを考える。

○数の構成や既習の計算を活用して、20 までの数の繰り上りや繰り下がりのない減法計算の仕方を考え、表現している。

【数学的な考え方】
(発言・ブロック操作)

① T1 と T2 の役割分担の明確化

○T1は、①～③のどの考えが多いかなど、学級全体の様子を把握する。

T2は、「10 のまとまり」から引いている子や手が止まっているなど、支援が必要な児童を把握し、個別の支援をする。

(個への支援)

○ブロック操作の際、**10のまとまり**・**ばら**を区別したワークシートをもたせる。

○用意したブロックの数が正しいか確認する。

○児童が考えたことを引き出すような声かけをおこない、思考の整理の手助けをする。

○説明する言葉が難しいときは、説明の仕方の話型を提示する。

○10のまとまりを意識して自分の考えを説明しているか見取っていく。

○ペアトークをする。

- ・自力解決で考えたことを説明し合う。

○ペアで、ブロックで3を引く動作を見せ合い、共通点や相違点・疑問点を見つけさせる。

○集団解決をする。

- ・考えたことを、ブロックを動かしながら発表する。

○児童のブロック操作を分かりやすくするため、ICT を活用し、児童がブロックを動かす様子をテレビにうつす。

○「10のまとまり」と「ばら」という言葉を使いながら説明できるようにする。

○「10 のまとまり」から引く方法も答えは間違っていないが、

③ 手立ての工夫

○黒板と児童の手元が同じにするため、T2が児童のブロック操作を、黒板のブロックやチョークを活用しながら板書に残す。

10 のまとまりはそのまま
ばらの5から3をひくと2
10と2で12

	<p>なぜ「ばら」から引く方法の方がよいのか話し合わせる。</p> <p>○「まとめ引き」の良さを思い出させながら、ブロック操作の仕方を確認する。</p> <p>○前時での繰り上がりのない2位数+1位数の学習を想起しながら、実際にブロックを動かして、3つの方法を比べることで、ばらから引く良さを感じさせる。</p> <p>○前時での学習を想起しやすくするため、繰り上がりのない2位数+1位数の計算の仕方にネーミングしておくとともに、学習内容の掲示をしておく。</p>		<p>②思考力・判断力・表現力</p> <p>ブロックを操作しながら、自分の考えを表現している。</p> <p>「速く正確に答えを求める」という観点から、多様な方法を比べ、どの方法が一番良いか考え、説明している。(発言・ブロック操作)</p>
--	---	--	--

3 本時のまとめをし、適用題に取り組む。

<p>○本時のまとめをする。</p> <p>●ばらのぶろっくからひくとかんたん。</p> <p>○適用題を解く。</p> <p>① $17 - 5 =$</p> <p>② $19 - 4 =$</p> <p>③ $18 - 2 =$</p>	<p>○たし算と同様に、「10のまとめ」はそのまま、「ばら」だけ動かす方が分かりやすいことを押さえ、「数名人」のポイントとして本時の学習をまとめる。</p> <p>○本時のまとめをもとに、ブロックを動かしながら、適用題を解かせる。</p> <p>○ブロック操作の仕方をペアに話す場面を設定することで、考え方を表現できる場を設定する。</p> <p>(個への支援)</p> <p>○まとめを振り返りながら、繰り返し「ばら」のブロックを操作しながら考えさせる。(T₂)</p> <p>【作業化】</p>	<p>○数の構成や既習の計算を活用して、20までの数の繰り上りや繰り下がりがない減法計算の仕方を考え、表現している。</p> <p>【数学的な考え】</p> <p>(発言・ブロック操作)</p>	
--	--	--	--

4 本時の学習を振り返り、次時の学習の確認をする。

<p>○今日の学習で分かったことや、これからもっと学びたいことを発表する。</p>	<p>○本時の振り返りをさせるとともに、次の学習への意欲をもたせる。</p>		
---	--	--	--

(4) 板書計画

ひたし

10よりおおきいかず

め 15-3のひきざんのしかたを
かんがえよう。

も

ふるつさんどと15こ
つくりました。
3こたべしました。
のこりはぜんぜんにたりません。

ひきざん

9-3=6
6-3=3

いき $15-3=12$
こたえ 12こ

①

10のまとまりは
そのままだから
とる
はやく
たたく

②

10のまとまりから
とる

ま [] からひくとかんたん。

ふ

① $17-5=12$
② $19-4=$
③ $18-2=$

みぎ
7がつ
11にちすいようび